

【全体概要】

富山県は、冬季は積雪・寡日照並びに夏季はフェーン現象等による異常高温などから、国内の他の地域と比較して、野菜生産においては栽培可能な期間が短く、長期間・安定的に生産・出荷することが難しい。このため、県内市場等からの県産野菜に対するニーズは高いものの、長期間、安定的に出荷できる県外産地の野菜が優先的に取扱われ、出荷期間が短い本県の野菜は優位に販売することができない。

そこで、「トマト」及び「ほうれんそう」において栽培施設内の温度上昇抑制技術の実証に取り組み、新技術の確立、普及を図る。

新品種・新技術等の概要

●トマト

(1) 遮光ネットによる温度上昇抑制技術

(2) 細霧冷房による温度上昇抑制技術

●ほうれんそう

(1) 耐暑性の高い品種の選定に向けた品種

比較試験

(2) 散水チューブ付き遮光ネットと妻面開放

による温度上昇抑制技術

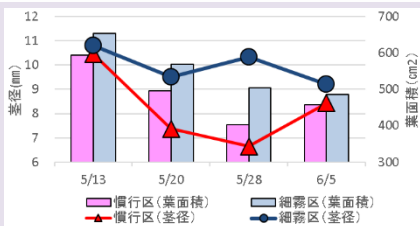
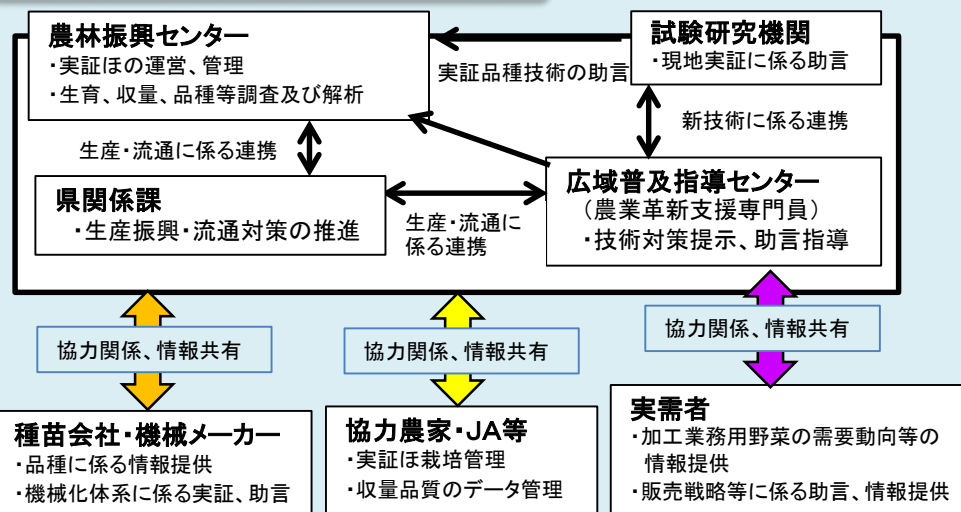


図1 細霧冷房がトマトの生育(茎径・葉面積)に及ぼす影響



図2 散水チューブ付き遮光ネット

実施体制図



主な取組内容

【実証ほの設置】

・トマト、ほうれんそうの栽培施設内の温度上昇抑制対策実証ほの設置

【検討会の開催】

・実証ほ設置・成績検討会、実証ほ現地検討会の開催
・実需者との意見交換会の開催

【生産性向上・経営改善効果分析】

・「高温対策新技術マニュアル」の作成、配布

【先進地視察の実施】

・安定生産技術にかかる県外先進地調査の実施

実績と今後の展開

●トマト

・細霧冷房と遮光ネットの活用によって、①温度と飽差の上昇抑制効果と②高温期の草勢維持による増収効果が得られることを確認できた。
・今後、細霧冷房と遮光ネットによる温度上昇抑制技術について、研修会等で紹介し、普及拡大を図る。

●ほうれんそう

・品種比較試験で有望とされた「タフスカイ」は、令和2年度の県の推奨品種に選定され、今後、県内産地での作付けが拡大する見込み。
・散水チューブ付き遮光ネットとハウス妻面開放の効果(慣行区比▲3.3～3.8℃)については、今後、研修会等で紹介し、普及拡大を図る。